

■松下光廣 実業家。ベトナムで事業営み、クオン・デの独立運動を支援、その死後独立した南ベトナムと日本を仲介。

まつしたみつひろ
白馬会・・・1896＝

天草の隠れキリシタンの里大江村字里で、農家で小規模な炭鉱の個人経営に乗り出していた松下徳次・テルの末っ子三男に生まれる。

家は天理教信者であったが、大江天主堂のフランス人神父フェリエが開いた孤児院を、後任のガルニエ神父が引き継いでいて、毎日に通う姿を見て育ち、

日露戦争終・1905＝**9歳**：日露戦争の勝利に貢献した天草出身の赤崎伝三郎の逸話に、他の島民同様興奮し、また、おそらく天理教布教のために_仏印に渡って一時帰国した義姉橋口セキの土産話に刺激され、この間、ベトナムではフランスの過酷な統治への抵抗を続けていたが、日本がロシアに勝利すると、日本留学の“東遊運動”が起こり、革命家ファン・ボイ・チャウが独立運動のシンボルに戴いたベトナム阮朝直系の王族クオン・デは、やがて、フランス当局の国外追放に、日本からも拒否されて、何処かに消える。

韓国併合・・・1910＝14歳：大江尋常高等小学校を卒業すると、
大逆事件判決1911＝15歳：_仏印のハノイに渡ることを決意、渋る両親を説得して了承を得、
明治天皇没・1912＝16歳：*再び仏印に渡る義姉セキに連れられて、長崎から仏印に渡航。ナムデインでフランス人向け日本土産品雑貨店を出していたセキの家に落着く。セキの手配で、フランス語とベトナム語の個人レッスンを受けると、フランス公学校に入学して本格的に学び、アルバイトで御用聞きするなどして急速に上達、かたわら、早稲田大学の商業講義録と法律講義録を購読、商業英語も猛勉強をする間、店に出入りするベトナム人青年革命家から、抵抗の歴史や独立への願望を熱っぽく聞かされて感動、

第一次大戦始1914＝**18歳**：セキの家を離れて、ハイフォン市の日本人商社(池田洋行)に就職、輸入雑貨の税関事務を担当し、
21ヶ条要求・1915＝19歳：_首都ハノイに出、{富茂洋行}に勤めるうち、
ロシア革命・1917＝21歳：_サイゴン市の(三井物産)出張所に採用され、商社マンとして必須な業務全般の勉強する機会を得る。

本格政党内閣1918＝22歳：サイゴンには日本娼館が立ち並び、娼婦の多くは自分の故郷天草や島原出身の“カラユキさん”で、まさに天草弁が共通語になっていたが、彼女らの悲惨な状況に衝撃を受けて、天草の反抗の血が騒ぎ始め、
原敬首相暗殺1921＝25歳：_ベトナム独立運動の青年闘士の手引きで、シンボルで日本に潜伏中のクオン・デと密かに文通始める。
水平社結成・1922＝26歳：西日本一帯に鳴りひびく天草郡富岡町の大網元鮫島本家当主の娘姉妹が経営する_ハノイの{鮫島ホテル}を譲り受け、{松下旅館}と名を変えたとともに、島原出身の“カラユキさん”キサと結婚、妻にホテル経営を任せられるのを見極めると、念願の貿易商{大南公司}を設立、ベトナム人相手の日用雑貨店も経営。

関東大震災・1923＝**27歳**：日本での取引先を確立すべく、ベトナムに渡航以來初めて帰国するが、関東大震災に遭遇。大江小学校卒業直後の頭の良い少年日渡啓治をスカウトしただけで、ハノイに戻るが、日渡は後重要な役割をして行く。

治安維持法・1925＝29歳：_日本帰国中、クオン・デと会う話が出るも、フランス当局に依頼された日本警察の監視が厳しく断念。
共産党事件・1928＝32歳：*仏印の経済的中心サイゴンの方が貿易に都合が良いと本社機能を移し、ハノイは支店とする。台湾に立ち寄った際、たまたま台北潜伏中のクオン・デが知って、危険も省みずにホテルに駆けつけ、ついに対面を果たすとともに、意気投合、越南復国同盟会との血盟関係を誓い、以後、亡命中の志士たちに本格的に活動資金を贈り続けるとともに、連絡役も引受け、ベトナムの独立運動と深い関係で結ばれることになる

満州事変・・・1931＝35歳：暫定日仏関税協定が結ばれて日本商品も扱いやすくなり、貿易業務は確立、事業内容も多角化して行く。
五一五事件・1932＝**36歳**：この年、ガルニエ神父が地元住民と共同し、鉄川与助の設計で、白亜の大江教会を建設。
国際連盟脱退1933＝37歳：この間、_フランス人の間に日本への警戒感が高まり排日運動となると、それとの闘いも決意。その活動が、今まで慎重にやってきたベトナム独立運動の方をも刺激して、フランス当局の嫌疑を招き、

日中戦争始・1937＝41歳：妻の体調悪化で一時帰国した留守中に、会社と自宅が家宅捜索を受け、_スパイ容疑で欠席裁判にかけられ、8年の要塞禁錮または国外追放の刑が宣告される。ベトナムに戻れず、大川周明を訪問、アジア解放の人材養成所構想に共鳴し意気投合、人生の転機となる。

健保+総動員 1938＝42歳：_急遽タイのバンコクに支社を設立し、東京との間を往復しながら指揮をとる。
第二次大戦始1939＝43歳：_クオン・デは、日本の南進政策に呼応すべく、{ベトナム復国同盟}を結成、
大政翼賛会・1940＝44歳：妻キサが病死。_(大川塾)の第一回卒業生以降、門下生を{大南公司}の社員として受け入れて行くとともに、潜伏中のクオン・デを大川に引き合わせ、以後、両者の連絡役も務め、

日米開戦・・・1941＝**45歳**：この年、ガルニエ神父が死去。_日本軍の仏印進駐で、サイゴン復帰を果たし、事業は一気に拡大するが、日本軍は静謐保持の理由でフランス当局の内政に不干渉、ベトナム人は失望し独立運動にも影響。

・・・1942＝46歳：茨城県出身の谷田部千代と再婚。_海軍飛行場建設に全力で取り組み、マレー沖海戦勝利に貢献。
創価学会検挙1943＝47歳：独立のための“明号作戦”に呼応する新興宗教カオダイ教からのたつて頼みで、
敗戦・・・1945＝49歳：カオダイ教奉仕隊の司令官に就任しましたが、クオン・デの祖国復帰も日本軍司令官に拒まれて消えさり、_敗戦で、在外資産及び全事業を没収され全てを失うも、戦犯追及の手を逃れ、

新憲法公布・1946＝50歳：_台湾経由で秘密裏に帰国。元陸軍少将田中隆吉の尽力で、東京裁判でも不問に付され、
極東裁判判決・1948＝52歳：大川周明も完全釈放。田中清玄の支援、彼の会社の一室に{内外産業株式会社}の看板を上げると、_東京に留まるもなお祖国復帰をあきらめていない、クオン・デを度々訪問するようになり、

朝鮮戦争始・1950＝**54歳**：アメリカのカインドンシナ介入を最後のチャンスと、クオン・デはベトナムに向かうも、バンコクで上陸拒否され、悄然と日本に戻って来る。
独立回復・・・1951＝55歳：_東京に貿易会社{大南公司}を再建。クオン・デが帰国の夢が叶わぬうち、東京の病院で死去、最後まで寄り添ってベトナム語で語りかけ、その遺志を確かめようとした。

55年体制始・1955＝59歳：小松清がこの年出版した「ヴェトナム」では匿名で記される。カンボジア国王より勲四等勲功章。
国連加盟・・・1956＝60歳：フランス軍がベトナムから撤退、_サイゴンのビルが返還され、{大南公司}を再建し、一家で移住。
なべ底不況・1957＝61歳：*在ベトナム日本人会会長に就任、同時に現地日越協会副会長に推され両国間の友好親善に努める。その後、ベトナム協会・日本カンボジア協会・日本ラオス協会・アジア孤児福祉教育財団の理事に就任。

インスタマン 1958＝62歳：_ベトナムとの戦後賠償交渉が本格化、国会での論議で、“背後にうごめく人物”として取沙汰されるなか、
美智子妃・・・1959＝**63歳**：_グエン・グオック・トゥ南ベトナム副大統領あて書翰の中で、ベトナム独立運動に関わってきた経緯を、感慨深く書き綴り、日本政府の南ベトナム賠償協定に仲介斡旋の労をとるなど、影響力を及ぼす。

安保闘争・・・1960＝64歳：カンボジア国王より勲三等勲功章。
タイタイ病始・1961＝65歳：ベトナム共和国より二等金慶勲章。
東京オリンピック 1964＝68歳：秋の生存者叙勲により勲四等瑞宝章。
美濃部都知事1967＝71歳：ベトナム共和国より二等社会功労章。

震ヶ関ビル 1968＝**72歳**：_事業は順調に拡大してきて、ビジネス街に新しいビルを建設し、支店網も次々復活するが、
全共闘ビュウ 1969＝73歳：ベトナム共和国より一等社会功労章。故郷大江の振興のため、松下光廣奨学金制度をつくり、
大阪万博・・・1970＝74歳：以後4年間、毎年奨学金を貸付け、
ドルショック・・・1971＝75歳：アメリカ軍が撤退し、パリ協定で、ベトナム共和国と南ベトナム臨時革命政府の並立状態になる。

石油ショック1973＝77歳：さらに、図書館建設を計画、
角栄金脈辞任1974＝78歳：松下記念図書館完成を機に「大江村郷土誌」を復刻して有志に配布。_南ベトナム臨時革命政府軍がサイゴン市に無血入城してホーチミン市と改称され、{大南公司}も没収されるが、踏みどまり、
クランブール事件1975＝79歳：*自社収集の資料全部を臨時革命政府に提供。国家計画委員会のディン・ドゥック・ティエム議長から感謝され、日本と新生ベトナムの橋渡しを依頼され、再入国ビザの交付を得て帰国するも、再建のあてなく、

田中角栄逮捕1976＝80歳：JALハイジャック・1977＝**81歳**：
・・・1981＝85歳：東京の屋敷を処分し、妻とともに_故郷の天草大江に隠棲し、
中曽根内閣・1982＝86歳：前立腺癌により_没した。

牧久「安南王国」の夢、インターネット関西大学(周縁の文化交渉学シリーズ4)中の平田豊弘「松下光廣と大南公司」、